

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500354		
法人名	株式会社ケア・コスモス		
事業所名	グループホームコスモス新井荘		
所在地	群馬県太田市新井町285-4		
自己評価作成日	令和3年10月4日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ家庭に在るような環境作り。 ・出来る範囲でのお金の管理を利用者が行っている。 ・広い畑がありなすやきゅうりなどを利用者が自由に育てている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://carecosmos.co.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和3年10月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者は自分の思い通りに自由に事業所の内外を出入りしている。訪問時に車両の駐車場所を教えてもらい、まさか利用者とは思わなかったが、後で職員から利用者であることを聞き、行動の自由さが感じ取れた。他の利用者も買い物やドライブに行ったり、自宅を見に行く等、認知症の周辺症状を抱えながらも意思を持って生活している利用者を職員は理解して受け入れ、適切な対応をしている。その様子を確認することができた。家族との関係性が薄く、助けも借りられない状況にあっても、利用者の尊厳を守ろうとする生活環境を提供し、支援を続ける事業所、職員の真摯な取り組みがうかがえた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	概ねできている。	利用者は比較的しっかりしており、日常生活における自由度は高い。利用者一人ひとりに適切な声かけをしている職員の様子から、理念を理解し、実践に繋がっていると管理者は理解している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	概ねできている。今年は施設が組長となり地域との交流を行っている。	利用者は自由に外に出ているので、近隣住民にその状況を話し、理解を得ることに努めている。また、施設が地区の組長となり、ケアマネジャー、利用者に関覧板を回す役目を任せている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまりできていない。コロナの為面会等もご遠慮していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あまりできていない。コロナの為運営推進会議は市の指導で実施していない。	運営推進会議は書面開催としている。利用者の近況報告、利用状況、行事等について報告事項をまとめたものを関係者に配付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	できている。生活保護の方が多く市とはこまめに連携をとっている。	生活保護担当者に書類を提出する機会もあり、担当部署と連携を図っている。また、ケアマネジャーが介護保険更新代行や認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来ている。身体拘束会議を行っている。	玄関は開錠している。自由に出かけてしまう利用者への不適切な声かけがあった場合は、管理者が指導し、振り返りをし修正している。3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	概ねできている。小規模の会議を行い接遇について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまりできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できている。契約の際こまめに質問を投げかけ話しを聞く体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できている。買い物など利用者の希望を出る限り聞く姿勢をとっている。	家族と無縁の利用者が多く、意見は本人から直接聞いている。要望があれば、コロナ禍ではあるが、状況を見計らって一緒に買い物に行くこともあり、意見や要望に応える支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できている。小規模の会議を行い意見を聞く場をもうけている。	職員会議で「良い施設とはどういう施設か」といった議題で話し合い、「入居者の希望を叶える施設が望ましい」といった職員からの意見を日常の支援や運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できている。年2回面談等を行い処遇等の話しをするようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	概ねできている。コロナで外部の研修が難しい状況ではある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまりできていない。コロナ過で他の施設との交流ができていない。同法人内ではできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できている。必要に応じ関係各所(市など)に利用者とおもむき話しを聞く支援もしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できている。入居時やケアプラン更新時家族の意見を聞く機会をもうけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できている。ケアマネが中心となり家族、本人のヒアリングを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	概ねできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できている。最近ではコロナ過で面会が出来ていないが面会時職員と家族が話をすることが多くみられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	概ねできている。緊急事態宣言下では難しいが状況に応じ面会を行えるようにしている。	一人で散歩に行ったり、リュックを背負って出かけてしまう利用者を見守り、話好きな利用者に応じる等、これまでの生活上の行動様式を尊重し、気持ち良く生活が送れる継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	概ねできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	概ねできている。退去後も住所をかし必要に応じ書類等を届けるサービスも行っていった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	概ねできている。買い物や市役所の付き添いなど行っている。	利用者とホールで話をしたり、個人的な話がある場合は居室で話をする中で、思いや意向を把握している。一人暮らしを希望する話等もあり、管理者と一緒に市に出向いて相談をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	概ねできている。入居前に情報を職員間で共有しサービスに活かせるか検討を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できている。自立度の高い方が多く畑仕事をする方、散歩に行かれる方など体を自由に動かせる支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ねできている。コロナ過で集まる事は難しいが各関係各所と連絡を密に行っている。	モニタリングは毎月ケアマネージャーが行い、介護保険の更新時、状態に変化があった場合は担当者会議を開き、介護計画を見直ししている。計画に沿ったケアをすることを職員に伝えている。	ケア記録について、介護計画に沿った記録となるよう心がけてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できている。必要に応じ自宅に付き添うケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できている。施設の畑があり利用者には自由に使ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できている。希望があれば嘱託医以外の病院の受診も行っている。	利用者のほとんどが協力医の往診を受けているが、退院後は職員が付添って他の医療機関に通院するケースもある。歯科は必要に応じて、また希望があれば月2回の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	できてる。体調の変化があればその都度連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できている。家族の支援が得られない利用者には家族の代わりに入院中の洗濯対応等を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できている。入居時に必ず確認し同意書ももらっている。	重度化に向けた指針があり、入居時に説明し、確認後同意書もらっている。希望があれば今後も看取りをすることになっている。ケースや該当する利用者に応じた対応を勉強会で検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	概ねできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	概ねできている。年2回の避難訓練を行っている。	法定の年2回の避難訓練を実施している。2～3日分の米、水、食糧品を備蓄し、業者に1週間分の排泄用品の用意を依頼している。	日頃から外に出られる利用者もいるので、事業所独自の自主訓練を実施し、利用者、職員の生命を守る災害対策に取り組んでみてはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ねできている。小規模な会議を行い接遇について話し合いもしている。	利用者は男性、職員は女性が多い為、異性介助になる場合は配慮しているが、現状拒否者はいない。寝たきり状態にある場合は食事を居室で摂る等、利用者の状態を尊重した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	概ねできている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ねできている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できている。必要に応じ利用者と共に洋服を買いに行く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	概ねできている。食事以外に希望があればパンやお菓子の購入の援助を行っている。	食材は宅配で届き、朝食は職員が手作りしている。季節感のある食事や菓子の提供を心がけているが、本人のお小遣いで購入を頼まれることもある。3時にはその都度おやつを用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	概ねできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	概ねできている。希望者には訪問歯科を入れ口腔内のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	概ねできている。	トイレでの排泄を基本とし、引き続き布パンツ使用している利用者、リハパンを使用する等、自立者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	あまりできていない。薬での対応が主となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ねできている。入浴が好きで毎日のように入浴されている方もいる。	毎日、午前中は湯をはっている。一番風呂がいいと言う利用者が多く、毎日入浴している人もいるが、入浴を促す声かけをしても難しい人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ねできている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概ねできている。薬に対し説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できている。畑仕事をする人、洗濯をする人など役割がある程度決まっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できている。希望があれば自宅や市役所、買い物へ一緒に行くこともある。	一人で散歩に行ったり、リュックを背負って出かける利用者もいるが、ほとんどの利用者が毎日外に出ている。コロナ禍にあってもドライブに出かけたり家に帰りたいという希望に応える支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できている。本人の希望があれば本人へお金を渡し管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できている。希望があれば関係各所へ電話をされる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。レクでの季節の飾り物をしている。	ホールの席はそれぞれ定位置があり、仲の良い利用者同士で座れるよう配慮している。定期的に換気を行い、コロナ感染予防、生活臭対策をしている。カレンダー、時計、献立が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できる限りおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限りおこなっている。	ベッド、エアコンは設置しているので、それ以外で自宅にある物、寝具、筆筒、テーブル、椅子、テレビ等全て持ち込んで、住み慣れた雰囲気がある居心地の良い空間作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限りおこなっている。		